

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更									
フリガナ 設置者	ガッコウホウジンテッショウカン 学校法人鉄蕉館									
フリガナ 大学の名称	カメダイリョウダイガクダイガクイン 亀田医療大学大学院 (Graduate School of Kameda University of Health Sciences)									
大学の位置	千葉県鴨川市横渚462番地									
大学の目的	看護医療分野に関する学術の理論及び応用を教授研究し、深い学識及び卓越した教育・研究・実践能力を培い、看護学及び医学の発展と地域社会における人々の健康と福祉の向上を寄与することを目的とする。									
新設研究科等の目的	大学の理念に基づき、高度な研究能力と実践能力を持ち、現場を変革することのできる看護管理者を含む高度看護実践者を育成する。									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 看護学部看護学科 看護学研究科看護学専攻 看護学専攻博士前期課程 第14条特例の実施
	看護学研究科 (Graduate School of Nursing Science) 看護学専攻 博士後期課程 (Doctoral Program in Nursing Science) 計	年	人	年次人	人	博士 (看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	令和7年4月 第1年次	千葉県鴨川市 横渚462番地	
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	令和7年4月名称変更予定 看護学研究科看護学専攻修士課程 → 看護学研究科看護学専攻博士前期課程									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数					修了要件単位数			
	看護学研究科看護学専攻 博士後期課程	講義	演習	実験・実習	計					
		10科目	3科目	0科目	13科目	23単位				
研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新設	分	看護学研究科看護学専攻博士後期課程	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	10 (10)	
		計	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	10 (10)	
既設	分	看護学研究科看護学専攻博士前期課程 (令和6年12月名称変更届出(予定))	10 (10)	4 (4)	6 (6)	2 (2)	22 (22)	0 (0)	118 (118)	
		計	10 (10)	4 (4)	6 (6)	2 (2)	22 (22)	0 (0)	118 (118)	
合計		10 (10)	4 (4)	6 (6)	2 (2)	22 (22)	0 (0)	127 (127)		
職種		専属			その他			計		
事務職員		17 (17)			3 (3)			20 (20)		
技術職員		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
図書館職員		1 (1)			6 (6)			7 (7)		
その他の職員		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
指導補助者		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
計		17 (17)			9 (9)			27 (27)		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	12,763.49㎡	0㎡	3232.12㎡	15,995.61㎡				
	そ の 他	4114.82㎡	0㎡	0㎡	4114.82㎡				
	合 計	16,878.31㎡	0㎡	3232.12㎡	20,110.43㎡				
校 舎	専 用	70.93㎡ (70.93㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	70.93㎡ 70.93㎡				
	講義室等・新設研究科等 の専任教員研究室	講義室 17室	実験・実習室 10室	演習室 19室	新設研究科等の 専任教員研究室 16室				
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図 書		学術雑誌		機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 を含む 図書25951〔1370〕 電子図書70〔0〕 学術雑誌162〔15〕 電子ジャーナル2153 〔579〕	
		[うち外国書] 冊	電子図書 〔うち外国書〕	[うち外国書] 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				
	看護学研究科 看護学専攻	25951〔1370〕 (23851〔1355〕)	70〔0〕 (55〔0〕)	162〔15〕 (162〔15〕)	2153〔579〕 (2153〔579〕)	238 (238)	— (—)		
	計	25951〔1370〕 (23851〔1355〕)	70〔0〕 (55〔0〕)	162〔15〕 (162〔15〕)	2153〔579〕 (2153〔579〕)	238 (238)	— (—)		
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		
		教員1人当り研究費等		273千円	273千円	273千円	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	
		図書購入費	450千円	100千円	0千円	0千円	—	—	
		設備購入費	7,915千円	0千円	0千円	0千円	—	—	
	学生1人当り 納付金		第1年次 1,500千円	第2年次 1,200千円	第3年次 1,200千円	第4年次 —	第5年次 —		
学生納付金以外の維持方法の概要	寄付金、補助金等による								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称	亀田医療大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率 倍	開設 年度	所 在 地
	看護学部看護学科	4	80	—	320	学士（看護学）	0.89	平成 24年度	千葉県鴨川市横渚 462番地
	看護学研究科看護学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士（看護学）	1.07	平成 31年度	千葉県鴨川市横渚 462番地 千葉県鴨川市東町 1343-4番地
附属施設の概要	該当なし								

教 育 課 程 等 の 概 要																
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員
基盤科目群	理論看護学	1前	/	2			○			3						オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部）
	システムティックレビュー	1前	/	1				○		1					1	
	デザイン思考法の理論と実践	1前	/	1			○								1	
	看護学研究法特論Ⅰ	1通	/		2		○			3					2	
	看護学研究法特論Ⅱ	1後	/		2		○			3					2	
	看護学研究法特論Ⅲ	1後	/		1		○			1					1	
	小計（6科目）	—	—	—	4	5	0	—	—	5		0	0	0	4	
専門科目群	DNP特論Ⅰ	1前	/	2			○			1					3	オムニバス オムニバス オムニバス・共同（一部） オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	DNP特論Ⅱ	1前	/	2			○			2					3	
	DNP特論Ⅲ	1後	/	2			○			1					1	
	DNP特論Ⅳ	1後	/	2			○			4	1				1	
	DNP特論Ⅴ	2前	/	2			○								1	
	DNPプロジェクト演習	2通	/	2				○		9					1	
	DNPプロジェクト研究	3通	/	3				○		9	3				7	
小計（7科目）	—	—	—	15	0	0	—	—	9	3	0	0	0	7		
合計（13科目）				—	—	—	19	5	0	—	—	9	3	0	0	10
学位又は称号		博士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）								
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
博士後期課程の修了要件は、大学院に3年以上在学し、基盤科目群必修科目4単位、基盤科目群選択科目4単位以上、計8単位以上、専門科目群必修科目15単位、総計23単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該博士後期課程の目的に応じて、DNPプロジェクト研究論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業の標準時間			90分					

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員	
基盤科目群	理論看護学	1前	/	2			○			3						オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部)	
	システムティックレビュー	1前	/	1				○		1					1		
	デザイン思考法の理論と実践	1前	/	1			○										1
	看護学研究法特論Ⅰ	1通	/		2			○		2	1						2
	看護学研究法特論Ⅱ	1後	/		2			○		3							2
	看護学研究法特論Ⅲ	1後	/		1			○		1							1
	小計(6科目)	—	—	—	4	5	0	—	—	6	1	0	0	0	0		4
専門科目群	DNP特論Ⅰ	1前	/	2			○			1						3	オムニバス
	DNP特論Ⅱ	1前	/	2			○			2						3	オムニバス
	DNP特論Ⅲ	1後	/	2			○			1		1				1	オムニバス・共同(一部)
	DNP特論Ⅳ	1後	/	2			○			4	1					1	オムニバス
	DNP特論Ⅴ	2前	/	2			○									1	
	DNPプロジェクト演習	2通	/	2				○		10						1	
	DNPプロジェクト研究	3通	/	3				○		10	4	2					
小計(7科目)	—	—	—	15	0	0	—	—	10	4	2	0	0	0	7		
合計(13科目)				—	—	—	19	5	0	—	—	10	4	2	0	0	10
学位又は称号		博士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)									
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等									
博士後期課程の修了要件は、大学院に3年以上在学し、基盤科目群必修科目4単位、基盤科目群選択科目4単位以上、計8単位以上、専門科目群必修科目15単位、総計23単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該博士後期課程の目的に応じて、DNPプロジェクト研究論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2期						
								1学期の授業期間			15週						
								1時限の授業の標準時間			90分						

教育課程等の概要																			
(看護学研究科看護学専攻修士課程)																			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)			
共通科目群	看護理論	1前	/		2		○			1									
	看護研究	1前		2		○			2	1								オムニバス・共同(一部)	
	コンサルテーション論	1後		2		○			1	2			1		2			オムニバス	
	看護教育論	1後		2		○			2			1			1			オムニバス・共同(一部)	
	看護倫理	1前		2		○			4	1	1							オムニバス	
	医療人間学	1後		2		○			1										
	医療統計学	1後		2		○				1									
	フィジカルアセスメント	1後		2		○			2	3	1								オムニバス・共同(一部)
	病態生理学	1前		2		○			2								11		オムニバス
	ケアシステム論	1後		2		○			6	1			1						オムニバス・共同(一部)
	看護管理論	1前		2		○			2									1	オムニバス
	臨床薬理学	1後		2		○				1								3	
小計(12科目)	—	—	—	4	20	0	—	—	10	5	3	2	0	18					
看護管理学	看護管理学特論Ⅰ(看護組織論)	1前	/		2		○			2								オムニバス	
	看護管理学特論Ⅱ(人材育成と活用)	1後		2		○			1		2							オムニバス・共同(一部)	
	看護管理学特論Ⅲ(安全管理学)	1後		2		○			1									オムニバス・共同(一部)	
	看護管理学演習	2前		2				○		2								オムニバス・共同(一部)	
	看護管理学特別研究	1後～2通		8				○		2									
小計(5科目)	—	—	—	0	16	0	—	—	2	0	2	0	0	1					
実践研究看護学	実践看護学特論Ⅰ(成人看護)	1前	/		2		○			1	2	1						オムニバス	
	実践看護学特論Ⅱ(精神保健看護)	1前		2		○			2	1		2						オムニバス・共同(一部)	
	実践看護学特論Ⅲ(小児看護)	1前		2		○			1										
	実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)	1前		2		○			1								2	オムニバス・共同(一部)	
	実践看護学演習	1後		2				○		4	1							オムニバス	
	実践看護学特別研究	1後～2通		8				○		5									
小計(6科目)	—	—	—	0	18	0	—	—	6	3	1	2	0	2					
高度実践看護師コース・がん看護学	がん看護学特論Ⅰ(がん病態治療学)	1前	/		2		○			1							7	オムニバス・共同(一部)	
	がん看護学特論Ⅱ(がん看護理論)	1前		2		○			1	1								オムニバス	
	がん看護学特論Ⅲ(がん看護援助論)	1前		2		○			1	1							3	オムニバス	
	がん看護学特論Ⅳ(がん薬物療法看護論)	1後		2		○			1								7	オムニバス	
	がん看護学特論Ⅴ(がん緩和ケア論)	1後		2		○			1	1							2	オムニバス	
	がん看護学演習Ⅰ	1後		2				○		1	1						2	オムニバス	
	がん看護学演習Ⅱ	1後		2				○		1	1						2	オムニバス	
	がん看護学実習Ⅰ(役割機能実習)	1後		2			2			○	1	1							
	がん看護学実習Ⅱ(診断治療実習)	2前		2			2			○	1	1							
	がん看護学実習Ⅲ(療養支援実習)	2前		2			2			○	1	1							
	がん看護学実習Ⅳ(統合実習)	2前		4						○	1	1							
	がん看護学課題研究	2通		2		○					1	1							
小計(12科目)	—	—	—	0	16	10	—	—	1	1	0	0	0	19					

教育課程等の概要																			
(看護学研究科看護学専攻修士課程)																			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員			
専 門 科 目 群	実践看護学 (高度実践看護師コース・精神看護学)	精神看護学特論Ⅰ(歴史・法制度論)	1前			2		○			1								
		精神看護学特論Ⅱ(精神看護理論)	1前			2		○			1								
		精神看護学特論Ⅲ(精神看護倫理・当事者論)	1前			2		○			1					1		オムニバス	
		精神看護学特論Ⅳ(リエゾン精神看護)	1前			2		○			1					3		オムニバス	
		精神看護学特論Ⅴ(地域精神看護)	1後			2		○			1	1		1				オムニバス・共同(一部)	
		精神看護学演習Ⅰ(対象理解と自己理解)	1前			2			○		1	1		1		1			オムニバス・共同(一部)
		精神看護学演習Ⅱ(精神科治療技法)	1後			2			○		1	1		1		6		オムニバス	
		精神看護学演習Ⅲ(精神看護援助方法)	1後			2			○		1	1		1					オムニバス・共同(一部)
		精神看護学実習Ⅰ(高度実践看護役割機能・実習)	1後				2			○		1	1		1				
		精神看護学実習Ⅱ(直接ケア実習)	2前				4			○		1	1		1				
		精神看護学実習Ⅲ-A(リエゾン精神看護実習)	2前				2			○		1	1		1		1		
		精神看護学実習Ⅲ-B(地域精神看護実習)	2前				2			○		1	1		1				
		精神看護学実習Ⅳ(間接ケア実習)	2後				2			○		1					1		
		精神看護学課題研究	2通				2		○			1	1						
		小計(14科目)	—	—	—	0	18	12	—	—	—	1	1	0	2	0	12		
専 門 科 目 群	実践看護学 (高度実践看護師コース・クリティカルケア看護学)	クリティカルケア看護学特論Ⅰ(危機とストレス)	1前			2		○				2	1					オムニバス・共同(一部)	
		クリティカルケア看護学特論Ⅱ(フィジカルアセスメント)	1前			2		○				2	1					オムニバス・共同(一部)	
		クリティカルケア看護学特論Ⅲ(治療管理)	1前			2		○				2	1					オムニバス・共同(一部)	
		クリティカルケア看護学特論Ⅳ(ケアの専門性)	1後			2		○				2	1					オムニバス・共同(一部)	
		クリティカルケア看護学演習Ⅰ(意思決定と倫理)	1後			2			○		1	2	1						オムニバス・共同(一部)
		クリティカルケア看護学演習Ⅱ(疼痛緩和)	1後			2			○			3	1	1					オムニバス・共同(一部)
		クリティカルケア看護学演習Ⅲ(ケアとケアの統合)	1後			2			○			2	1						オムニバス・共同(一部)
		クリティカルケア看護学実習Ⅰ(役割機能の実習)	1後				2			○		2	1						
		クリティカルケア看護学実習Ⅱ(診断・治療学実習)	2前				3			○		2	1						
		クリティカルケア看護学実習Ⅲ(地域連携に関する実習)	2前				1			○		2	1						
		クリティカルケア看護学実習Ⅳ(統合実習)	2前				4			○		2	1						
		クリティカルケア看護学課題研究	2通				2		○					1					
小計(12科目)	—	—	—	0	16	10	—	—	—	1	3	1	1	0	34				

教育課程等の概要																
(看護学研究科看護学専攻修士課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(の教員)
専門看護群 実践看護学 (高度実践看護師コース・エンドオブライフケア看護学)	エンドオブライフケア学特論Ⅰ(プライマリヘルスケアにおけるNPのコンピテンシー)	1前	/		2		○			1	1				5	オムニバス・共同(一部)
	エンドオブライフケア学特論Ⅱ(EOL実践と理論的基盤)	1前	/		2		○			2						オムニバス・共同(一部)
	エンドオブライフケア学特論Ⅲ(小児看護)	1前	/		2		○			1		1				オムニバス・共同(一部)
	エンドオブライフケア学特論Ⅳ(成人の看護とウイメンズヘルス)	1前	/		2		○			2	2					オムニバス
	エンドオブライフケア学特論Ⅴ(高齢者の看護)	1前	/		2		○			1		1	1		2	オムニバス
	エンドオブライフケア学特論Ⅵ(メンタルヘルス)	1前	/		2		○			2	1		2			オムニバス・共同(一部)
	ヘルスプロモーション学特論	1後	/		2		○			3	1				1	オムニバス
	プライマリヘルスケア技術特論	1後	/		2		○			2	1				7	オムニバス・共同(一部)
	エンドオブライフケア管理学特論	1前	/		2		○			2					2	オムニバス・共同(一部)
	プライマリヘルスケア技術演習Ⅰ(臨床推論)	1後	/		2			○		2	1				13	オムニバス
	プライマリヘルスケア技術演習Ⅱ(プライマリケア/コミュニティケア)	1後	/		2			○		1					7	オムニバス・共同(一部)
	エンドオブライフケア学実習Ⅰ(Nursing Case Management:継続看護マネジメント/Transitional Careの実践)	2後	/			4			○	1		2	1			
	エンドオブライフケア学実習Ⅱ(プライマリケアの実践)	2後	/			4			○	1		2	1			
	エンドオブライフケア学実習Ⅲ(地域包括ケアの実践)	2後	/			2			○	1		2	1			
	エンドオブライフケア学課題研究	2通	/			2			○	1						
小計(15科目)		—	—	0	24	10		—	9	4	3	3	0	32		

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(看護学研究科看護学専攻修士課程)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員	
専門看護群 ウイメンズヘルス・助産学	ウイメンズヘルス特論	1前	/		2		○			1					1	オムニバス	
	周産期ケア特論	1・2後			2		○									9	オムニバス
	助産マネジメント特論	1・2前			2		○			1						2	オムニバス
	ウイメンズヘルス特論演習	1後			2			○		2		2				4	オムニバス
	ウイメンズヘルス研究論	1前			2			○		2							オムニバス
	助産学概論	1前			2			○		1						1	オムニバス
	助産学展開論	1前			2			○		1						1	オムニバス
	ウイメンズヘルス教育論	1後			2			○		1		2					オムニバス
	周産期診断治療論	1後			2			○								8	オムニバス
	助産診断・技術論Ⅰ(妊婦の助産ケア)	1前			2			○				1					
	助産診断・技術論Ⅱ(産婦の助産ケア)	1前			2			○		1							
	助産診断・技術論Ⅲ(褥婦・新生児の助産ケア)	1前			2			○		1		1					
	助産診断・技術演習	1前			2				○		2		2				オムニバス
	地域母子保健論	2前			2			○		1						4	オムニバス
	助産管理論	2前			2			○		1						1	
	助産学実習Ⅰ	1後			2				○	2		2					
	助産学実習Ⅱ	1後			4				○	2		2					
	助産学実習Ⅲ	1後			2				○	2		2					
	継続事例実習	1後・2前			2				○	2		2					
	地域助産実習	2前			1				○	2		2					
	周産期ハイリスク実習	2前			2				○	2		2					
	助産管理実習	2前			2				○	2		2					
	ウイメンズヘルス・助産学特別研究	1後～2通			8				○	2							
	ウイメンズヘルス・助産学課題研究	2通			2				○	2							
小計(24科目)	—	—	—	0	55	0	—	—	3	0	2	0	0	24			
合計(100科目)				—	—	4	183	42	—	11	5	9	3	0	119		

学位又は称号	修士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
<p>所定の在学年限を満たし、以下の所定単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、研究論文についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>(1) 看護管理学 30単位 ①共通科目14単位【看護研究2単位、看護倫理2単位は必修、そのほか共通科目から10単位】 ②専門科目16単位【看護管理学特論Ⅰ（看護組織論）、看護管理学特論Ⅱ（人材育成と活用）、看護管理学特論Ⅲ（安全管理学）の6単位、看護管理学演習2単位、看護管理学特別研究8単位】</p> <p>(2) 実践看護学 30単位 1. 実践研究コース（但し、エンドオブライフケア学は38単位とする。） ①共通科目14単位【看護研究2単位、看護倫理2単位は必修、そのほか共通科目から10単位】 ②専門科目16単位【実践看護学特論Ⅰ（成人看護）、実践看護学特論Ⅱ（精神保健看護）、実践看護学特論Ⅲ（小児看護）、実践看護学特論Ⅳ（在宅看護）、看護管理学特論Ⅲ（安全管理学）の中から6単位、実践看護学演習2単位、実践看護学特別研究8単位】</p> <p>2. 高度実践看護師コース ①共通科目14単位【「看護理論」「看護研究」「コンサルテーション論」「看護教育論」「看護倫理」「看護管理論」の中から8単位以上（「看護研究」と「看護倫理」は必修）を履修するとともに、「フィジカルアセスメント」「病態生理学」「臨床薬理学」6単位を履修】 ②専門科目 がん看護学16単位【がん看護学特論Ⅰ～Ⅴから10単位、がん看護学演習Ⅰ、Ⅱから4単位、がん看護学課題研究2単位を履修】ただし、日本看護協会がん看護専門看護師の資格試験の受験を希望する者は、自由科目のがん看護学実習Ⅰ～Ⅳ10単位を履修する。 精神看護学16単位【精神看護学特論Ⅰ～Ⅴから8単位（サブスペシャリティに応じて、特論Ⅳ（リエゾン精神看護）か特論Ⅴ（地域精神）のどちらかを選択）、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲから6単位を履修。精神看護学課題研究2単位を履修】ただし、日本看護協会専門看護師資格試験の受験を希望する者は、自由科目の実習Ⅰ～Ⅳから10単位を履修する（ただし、サブスペシャリティに応じて、実習Ⅲ-Aか、Ⅲ-Bのどちらかを選択）。 クリティカルケア看護学16単位【クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅳから8単位、クリティカルケア看護学演習Ⅰ～Ⅲから6単位、クリティカルケア看護学課題研究2単位を履修】ただし、日本看護協会急性・重症患者看護専門看護師の資格試験の受験を希望する者は、自由科目のクリティカルケア看護学実習Ⅰ～Ⅳから10単位を履修する。 エンドオブライフケア学24単位【エンドオブライフケア学特論Ⅰ～Ⅵ、ヘルスプロモーション学特論、プライマリヘルスケア技術特論、エンドオブライフケア管理学特論から18単位、プライマリヘルスケア技術演習Ⅰ、Ⅱから4単位、エンドオブライフケア学課題研究2単位を履修】ただし、日本看護系大学協議会ナースプラクティショナー（JANPU-NP）資格試験の受験を希望する者は、自由科目のエンドオブライフケア学実習Ⅰ～Ⅲの10単位を履修する。</p> <p>(3) ウィメンズヘルス・助産学（助産師有資格者） 30単位 ①共通科目14単位【看護研究2単位、看護倫理2単位は必修、そのほか共通科目から10単位】 ②専門科目16単位【ウィメンズヘルス特論、周産期ケア特論、助産マネジメント特論、ウィメンズヘルス特論演習、助産管理実習、周産期ハイリスク実習から8単位、ウィメンズヘルス・助産学特別研究8単位】</p> <p>ウィメンズヘルス・助産学（助産師無資格者） 61単位 ①共通科目14単位【看護研究2単位、看護倫理2単位は必修、そのほか共通科目から10単位】 ②専門科目47単位【ウィメンズヘルス・助産学45単位、他の専攻・コース領域の特論2単位】</p> <p>*なお、他の専攻領域・コースの特論も、2単位の範囲で履修可能とする。ただし、専攻領域の科目との読み替えはできない。</p>		<p>1 学年の学期区分 2期</p> <p>1 学期の授業期間 15週</p> <p>1 時限の授業の標準時間 90分</p>	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(看護学部看護学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
人間の 理解	コミュニケーション・人間関係論	1前	○	1				○						1	
	情報科学	1前	○	1				○		1					
	文化人類学	1後	○	1			○							1	
	ナラティブ表現法	1後	○	1				○		1					
	医療人文学	1前			1		○			1					
	哲学	1後			1		○							1	
	心理学	1後			1		○							1	
	倫理学	1後			1		○			1					
	音楽鑑賞	1後			1			○							1
	オルターナティブセラピー	2前			1			○			1				1
スピリチュアリティ	3前			1			○							1	
基礎 教養 分野	English I(日常会話-初級)	1前	○	2				○					1		
	English II(日常会話-中級)	1後	○	2				○					1		
	中国語 I(日常会話-初級)	1前			1			○						1	
	中国語 II(日常会話-中級)	1後			1			○						1	
	English III(日常会話-一般)	2後			1			○					1		
	看護英語	2前			1			○					1		
	論文の書き方(英語)	4前			1			○					1		
	原著論文講読(英語)	3前			1			○		1				1	オムニバス
人間 と 環 境	家族社会学	1後	○	1				○				1		1	オムニバス
	社会福祉学	1後			1			○						1	
	社会学	1前			1			○			1		1	1	オムニバス
	経済学	1前			1			○			1				
	国際理解と国際貢献	1前	○	1						1			1	3	オムニバス・ 共同(一部)
	南房総の歴史と未来	1後			1							1	1	1	オムニバス・ 共同(一部)
	ホスピタルアート	1前			1			○						2	オムニバス
	日本国憲法	2前			1			○						1	

教育課程等の概要																	
(看護学部看護学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く教員	
基礎教養分野	人間と理解	化学	1後	○	1			○							2	オムニバス・共同(一部)	
		統計学	2後			1		○	○			1					
		生物学	1前	○	1				○			1					
		物理学	1前			1		○		○						2	
		体育	1通			1				○						1	
		身体活動論	1後			1		○								3	
		東洋医学	4後			1			○							3	
		予防と治療の遺伝学	4後			1		○				1				2	
		ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	1前	○	1			○			1	3	2	2		
			基礎ゼミナールⅡ	1後	○	1			○			2	1	3	4		
		基礎ゼミナールⅢ	2前	○	1			○			2	1	3	3			
	小計(38科目)		—	—	15	25	0	—			6	5	8	10	0	18	
専門基礎分野	生命科学	発達心理学	1後	○	2			○								1	
		疫学Ⅰ	2後	○	1			○				1					
		疫学Ⅱ	2後			1		○				1					
		保健統計Ⅰ	2後	○	1			○				1					
		保健統計Ⅱ	2後			1		○				1					
		健康支援と社会保障制度	2後	○	2			○								1	
		保健医療福祉行政論	3前			2		○								1	
		人間機能学(形態と機能)	1後	○	4			○			1					1	
		人間病態学Ⅰ	2前	○	3			○	○		1					14	
		人間病態学Ⅱ	2前	○	4			○								14	
		栄養・生化学	2後	○	2			○				1	1				
		臨床薬理学Ⅰ(基礎)	2後	○	2			○								3	
		臨床薬理学Ⅱ(応用)	3前			1			○							1	
		公衆衛生学	2後	○	1			○								4	
	小計(14科目)		—	—	22	5	0	—			2	1	1	0	0	40	
看護専門分野	基礎看護学	看護学概論	1前	○	2			○			1		1				
		基礎看護技術論	1後	○	1			○			1		1				
		日常生活援助論	1後	○	2				○				2	2			
		医療安全	2前	○	1			○			1			2			
		治療援助論	2前	○	1				○				2	2			
		看護展開論Ⅰ(ナーシングプロセス)	2前	○	2			○					1	1			
		看護展開論Ⅱ(ヘルスアセスメント)	2前	○	2				○		1		2	2			
		基礎看護学臨床実習Ⅰ	1後	○	1					○	1		2	2			
		基礎看護学臨床実習Ⅱ	2後	○	2					○	1		2	2			
		小計(9科目)		—	—	14	0	0	—			1	0	2	2	0	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(看護学部看護学科)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員	
看護 専門 分野	成人看護学概論	2前	○	2			○			1	1		1			オムニバス・ 共同（一部）	
	慢性期成人看護援助論	2後	○	2				○		1	1		1			オムニバス・ 共同（一部）	
	急性期成人看護援助論	3前	○	2				○		1	2	1	1			オムニバス・ 共同（一部）	
	高齢者看護学概論	2後	○	2			○			1		2	1		1	オムニバス・ 共同（一部）	
	高齢者看護援助論	3前	○	2				○		1		2	1		2	オムニバス・ 共同（一部）	
	精神保健看護学概論	2前	○	2			○			1	1		2			オムニバス	
	精神保健看護援助論	2後	○	2				○		1	1		2			オムニバス・ 共同（一部）	
	在宅看護学	2後	○	3			○	○		1			2			6	オムニバス・ 共同（一部）
	エンドオブライフ看護学	3前	○	1			○		○	1	1						オムニバス・ 共同（一部）
	成人看護学臨地実習Ⅰ(慢性期)	3後	○	3					○	1	1						
	成人看護学臨地実習Ⅱ(急性期)	3後	○	3					○	1	1		2				
	高齢者看護学臨地実習Ⅰ	3後	○	1					○			2	1				
	高齢者看護学臨地実習Ⅱ(リハビリ期)	3後	○	3					○			2	1				
	精神保健看護学臨地実習	3後	○	2					○	1	1		2				
	在宅看護学臨地実習	3後	○	2					○	1			2				
	地域看護学臨地実習	3後	○	2					○	1	1		1				
	ウイメンズヘルス看護学概論	2後	○	2			○			2		2				1	オムニバス
	周産期看護援助論	3前	○	2					○	2		2				2	オムニバス・ 共同（一部）
	ウイメンズヘルス看護学臨地実習	3後	○	2					○	2		2				1	
	小児保健看護学概論	2後	○	2			○			1		1	1				オムニバス
	小児保健看護援助論	3前	○	2					○	1		1	1			2	オムニバス・ 共同（一部）
	小児保健看護学臨地実習	3後	○	2					○	1		1	1				
小計（22科目）		—	—	46	0	0		—		8	4	6	9	0	14		

教 育 課 程 等 の 概 要																						
(看護学部看護学科)																						
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考							
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員						
看護の統合と実践	地域の健康と看護	1後	○	1			○			1	1					4	オムニバス オムニバス・共同(一部)					
	公衆衛生看護とヘルスプロモーション	2後	○	1			○			1	1											
	国際看護学Ⅰ	3前	○	2			○			1		2	2									
	国際看護学Ⅱ	4前			1			○		1		1	3									
	地域包括ケアシステム論	1後	○	2			○			4		2	2				オムニバス・共同(一部)					
	チーム医療と看護システム	4前	○	2			○			1			1				3	オムニバス				
	看護教育	2後	○	1			○					1	1					オムニバス・共同(一部)				
	生涯教育論	4後			1		○			1								1	オムニバス			
	看護と法律	2後	○	1			○				1								オムニバス・共同(一部)			
	看護研究	3前	○	2			○			1	2	1							オムニバス・共同(一部)			
	看護倫理学	4前	○	2			○			1									オムニバス・共同(一部)			
	災害看護学	3前	○	1				○				2		1					3	オムニバス・共同(一部)		
	看護の統合と実践臨床実習Ⅰ(医療安全と感染看護学)	4前	○	1					○		1		2	2								
	看護の統合と実践臨床実習Ⅱ(チーム医療・地域包括ケアシステム)	4前	○	3					○		2	3	4	6								
研究ゼミナールⅠ	4前	○	1				○		8	5	8	6						オムニバス・共同(一部)				
研究ゼミナールⅡ	4後	○	1				○		8	5	8	6						オムニバス・共同(一部)				
小計(16科目)	—	—	—	21	2	0	—	—	—	10	5	8	10	0	11							
公衆衛生看護学	公衆衛生看護支援技術Ⅰ(個人・家族)	3前			2		○			1	1		1					1	オムニバス・共同(一部)			
	公衆衛生看護支援技術Ⅱ(集団・組織)	3前			1		○			1	1								1	オムニバス		
	公衆衛生看護支援技術演習	3前			1			○		1	1		1							オムニバス・共同(一部)		
	学校保健活動論	2後			1		○													1		
	産業保健活動論	4後			1		○													1		
	公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	4前			2		○			1	1		1							4	オムニバス	
	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	4前			2		○			1	1		1							1	オムニバス・共同(一部)	
	公衆衛生看護活動展開論演習	4前			2			○		1	1		1								オムニバス・共同(一部)	
	公衆衛生看護管理論	4前			1		○			1											3	オムニバス
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前			3			○		1	1		1									
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4後			2			○		1	1		1									
小計(11科目)	—	—	—	0	18	0	—	—	—	1	1	0	1	0	11							
合計(110科目)				—	—	—	118	50	0	—	—	—	12	5	8	12	0	104				
学位又は称号		学士(看護学)			学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)													
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等														
基礎教養分野24単位以上 (必修15単位、選択：人間の理解から4単位以上、外国語から2単位以上、人間と環境から1単位以上、人間と健康から2単位以上の計9単位以上) 専門基礎分野22単位 看護専門分野81単位								1学年の学期区分 1学期の授業期間 1時限の授業の標準時間				2期 15週 90分										

別記様式第2号（その3の1）

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目群	理論看護学	<p>(概要) 看護理論を理解し、看護実践の質の向上のための理論的思考方を学修し、概念や看護理論を分析・評価する方法を習得する。各自の専門領域における対象理解と看護課題に対し概念や理論を適用する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>① 田中 美恵子/2回) 2: 科学史および哲学を踏まえた看護理論の位置づけ 看護理論の根拠となる人間観、科学観と倫理 3: 理論開発に用いられる主要概念の理解、理論の評価基準 看護科学における理論と研究の関わり</p> <p>② 休波 茂子/8回) 1: 科目オリエンテーション 看護科学の歴史、看護理論の定義、看護理論の構成要素、看護理論の意味 8: 理論の分析と評価 (メリイによる看護理論の評価) 9: 理論評価の枠組みを用いた理論評価の実際① 各自の専門領域に適用する理論/代表的な看護理論 (相互作用理論: ペプロウ、トラベルビー、オーランド、他から選択) 10: 理論評価の枠組みを用いた理論評価の実際② 各自の専門領域に適用する理論/代表的な看護理論 (システム理論から全体論: オレム、ロイ、M.ニューマン、他から選択) 11: 理論評価の枠組みを用いた理論評価の実際③ 各自の専門領域に適用する理論/代表的な看護理論 (ケアリング理論: バナー、ワトソン、他から選択) 12: 理論評価の枠組みを用いた理論評価の実際④ 各自の専門領域に適用する理論/代表的な中範囲理論 (看護野アセスメントと援助に関する理論: セルフケア理論、カルガリー華族アセスメント/介入モデル、ノーバックのソーシャルサポートなどから選択) 13: 理論評価の枠組みを用いた理論評価の実際⑤ 各自の専門領域に適用する理論/代表的な中範囲理論 (危機理論、ストレス・コーピング理論、病気の不確かさ理論等から選択) 14: 理論評価の枠組みを用いた理論評価の実際⑥ 各自の専門領域に適用する理論/代表的な中範囲理論 (行動変容・行動強化に関する理論: 保険深淵モデル、自己効力感、エンパワーメントなどから選択)</p> <p>(6 長江 弘子/4回) 4: 理論構築における概念分析① 方法論的理解 5: 理論構築における概念分析② 方法論的理解: 論文クリティーク 6: 理論構築における概念分析③ 概念分析の実際 (1) 各自の専門領域に関連する概念を選択 7: 理論構築における概念分析④ 概念分析の実際 (2) 各自の専門領域に関連する概念を選択</p> <p>① 田中 美恵子・② 休波 茂子・⑥ 長江 弘子 /全1回) (共同) 15: 特定の対象または特定の領域における看護現象に焦点を当て理論 (概念) の看護実践への応用</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目群	システマティックレビュー	<p>(概要) システマティックレビューとメタアナリシス、論文クリティークによりエビデンスに基づく高度な看護実践（EBP）を行うための研究知見を正確に理解し統合する能力を習得する。システマティック・レビューの方法論的理解と高等統計学の理解、エビデンスレベルの高いデータベース（コクラン、JBI）の活用方法を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(20 尾崎 章子/9回)</p> <p>1: エビデンスに基づく看護実践（EBP）とガイドライン：エビデンスとは 2: エビデンスに基づく看護実践（EBP）のプロセス：エビデンスの活用とは 3: 多様なレビューとシステマティックレビューとの比較を通して、目的と方法論的意義 4: データベースを用いたエビデンスの探索：データベースの活用方法 5: データベースを用いたエビデンスの探索：プロトコールの作成方法 6: システマティックレビューにおける高等統計学の読解① 7: システマティックレビューにおける高等統計学の読解② 8: メタアナリシスの方法と高等統計学の読解① 9: メタアナリシスの方法と高等統計学の読解②</p> <p>(6 長江 弘子・20 尾崎 章子/6回)（共同）</p> <p>10: システマティックレビュー論文のクリティーク① 11: システマティックレビュー論文のクリティーク② 12: システマティックレビュー論文のクリティーク③ 13: データベースを用いたエビデンスの探索：プロトコールの作成① 14: データベースを用いたエビデンスの探索：プロトコールの作成② 15: 総合討論</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	デザイン思考法の理論と実践	<p>(概要) デザイン思考法の基礎を学び、医療分野への応用について理解する。</p> <p>(17 大滝 令嗣/全8回)</p> <p>1: デザイン思考法の生まれた背景 2: ヘルスケア分野におけるデザイン思考法の意義 3: デザイン思考法の基本ステップ 4: ユーザーの真意を理解する技術 5: 課題の再定義、リブレインギング 6: サービスのプロトタイプを作る 7: ユーザーのフィードバックを受け取るためのファシリテーション 8: 海外の医療現場での応用事例</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基 盤 科 目 群	看護学研究法特論 I	<p>(概要) 看護実践の変革のためのアウトカムリサーチに関する看護研究デザインを学び、その厳密性について探求する。また、アウトカムリサーチに必要な応用統計学について学び、その解析手法の適切性を理解する。そのうえで、DNP研究プロジェクトを計画するうえで目的に合った研究デザインの構築にむけた基礎的能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>① 田中美恵子/3回 9: アウトカムリサーチとしてのアクションリサーチの研究デザインとその厳密性① 10: アウトカムリサーチとしてのアクションリサーチの研究デザインとその厳密性② 11: アウトカムリサーチとしてのアクションリサーチの研究デザインとその厳密性③論文クリティーク</p> <p>(6 長江 弘子/4回) 1: アウトカムリサーチに必要な要素と理論的枠組み 12: アウトカムリサーチとしての混合研究における研究デザインとその厳密性① 13: アウトカムリサーチとしての混合研究における研究デザインとその厳密性② 14: アウトカムリサーチとしての混合研究における研究デザインとその厳密性③論文クリティーク</p> <p>④ 岡本明美/1回 5: 実装研究のための臨床的アセスメント&アウトカムと研究デザイン</p> <p>(20 尾崎章子 /3回) 6: アウトカムリサーチとしての介入研究デザインとその厳密性① 7: アウトカムリサーチとしての介入研究デザインとその厳密性② 8: アウトカムリサーチとしての介入研究デザインとその厳密性③論文クリティーク</p> <p>(25 宮下光令/3回) 2: アウトカムリサーチにおける統計学的手法の重要性と妥当性：総論 3: アウトカムリサーチに必要な統計学的手法とその解析方法、妥当性① 4: アウトカムリサーチに必要な統計学的手法とその解析方法、妥当性②</p> <p>①田中美恵子・6 長江 弘子・④岡本明美・20 尾崎章子・25 宮下光令/全1回) (共同) 15: 各自のDNP研究プロジェクトに有効な研究デザインについて：プレゼンテーションと討議</p>	オムニバス方式・ 共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目群	看護学研究法特論Ⅱ	<p>(概要) まず質的研究の哲学的パラダイムのヴァリエーションについて学修する。さらに質的研究にとって重要な手法である参加観察法（観察・面接技術）についてエスノグラフィーを基盤に学修する。特に現場変革に有用な小・中範囲理論を生み出す方法論としてGrounded Theory Approachについて学び、現場介入の方法論としてアクションリサーチについて学修する。さらに当事者の視点を知るための方法論として、現象学的研究とナラティブリサーチについて学ぶ。最後に質的データを用いて、各方法論に基づくデータ分析の実際について学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>① 田中 美恵子/9回 1: 質的研究の哲学的パラダイムとそのヴァリエーション 2: エスノグラフィーと参加観察法（観察に焦点をあてて） 3: エスノグラフィーと参加観察法（面接に焦点をあてて） 4: Grounded Theory Approachの理論と技術（Strauss & Corbin版、M-GTA） 5: アクションリサーチの理論と技術 6: フォーカスグループインタビューの手法の理論と実際 7: 現象学的研究・解釈学的現象学研究の哲学的基盤と研究への応用 9: ナラティブリサーチの理論と技術（ナラティブの理論的背景） 11: 質的研究のデータ分析の実際（Grounded Theory Approach）</p> <p>(5 志村 千鶴子/3回) 8: 現象学的研究の実例（研究例を用いた理解） 12: 質的研究のデータ分析の実例（現象学的研究） 13: 質的研究のデータ分析の実例（現象学的研究）</p> <p>④ 岡本 明美/3回 10: ナラティブリサーチの実例（研究例を用いた理解） 14: 質的研究のデータ分析の実例（ナラティブリサーチ） 15: 質的研究のデータ分析の実例（ナラティブリサーチ）</p>	オムニバス方式
	看護学研究法特論Ⅲ	<p>(概要) 臨床現場の患者アウトカムや関わる職種との連携を含めた看護実践を明らかにするために事例研究法について学び、看護実践の質向上や組織変革に向けたアプローチ方法を開発する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 長江 弘子/3回) 4: 現象学とGTAを活用した事例研究法（山本則子） 5: リフレクションを用いた事例研究法（東めぐみ） 7: 時間軸で軌跡をとらえる事例研究法</p> <p>(21 前田 樹海/4回) 1: 看護研究における事例研究の位置づけ 2: 事例研究における方法論（データ収集、分析方法）とその課題 3: 事例研究の質：備えるべき要素とは何か（クリティックの視点） 6: ケーススタディ法を活用した事例研究法</p> <p>(6 長江 弘子・21 前田 樹海/全1回)（共同） 8: 各自の実践事例における実践のプロセスとアウトカム：プレゼンテーション</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 群	DNP特論 I	<p>(概要) DNPの役割、リーダーシップ、ならびに実践課題に対する倫理的観点について学修する。多様なヘルスケアの場において個人及び集団の生活の安全、質、健康を改善するために、エビデンス及び倫理的観点に基づき、ケア及び組織変革を行うDNPの役割を理解し、効果的にリーダーシップを実践する能力を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9 足立 智孝/5回) 11: 臨床倫理の基礎：倫理と倫理原則、意思決定のプロセス 12: 臨床倫理の方法論：各種検討シート、MCD等 13: 事例検討：模擬事例の検討 14: 事例検討：各自の事例の検討1（事例発表と討議） 15: 事例検討：各自の事例の検討2（事例発表と討議）</p> <p>(⑥ 中村 美鈴/6回) 1: コースオリエンテーション、グローバルスタンダードとしてのDNPの歴史と概念、役割 2: グローバルスタンダードとしてのDNPコンピテンシーとDNPエッセンシャルズ 3: DNPのリーダーシップとその発揮 4: DNPとしての高度看護実践の探求 - 根拠に基づいた実践 (EBP) の重要性 9: DNP役割としてのプロジェクト研究の国内外の動向(1) 米国、アジア 10: DNP役割としてのプロジェクト研究の国内外の動向(2) ヨーロッパ</p> <p>(⑧ 橋本 スティーブ/2回) 6: DNPとしての根拠に基づいた活動の実際：高度看護実践と現状の課題 (2) 8: DNPとしての活動の実際：プロジェクト研究の取り組みの実際</p> <p>(⑩ Jerden 鈴木 麻希/2回) 5: DNPとしての根拠に基づいた活動の実際：高度看護実践と現状の課題 (1) 7: DNPとしての活動の実際：質改善へ取り組みと障壁、その解決策</p>	オムニバス方式
	DNP特論 II	<p>(概要) 医療経済学、医療・看護の質評価：日本の医療の実態を学び、費用効果の分析など一連の医療経済評価の手法を用いながらDNPの看護実践が医療経済にどのように影響を及ぼすのかを各対象や各施設（ミクロ）、国（マクロ）の視点で理解することを目的とする。また諸外国との比較を通して我が国における看護と政策を関連付け課題を考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 大野 知代/1回) 12: 海外の看護と政策② 先進国における看護制度と医療経済</p> <p>(③ 鶴岡 章子/1回) 11: 海外の看護と政策① 開発途上国における看護制度と医療経済</p> <p>(⑦ 渡邊 八重子/2回) 9: 第三者評価 10: 安全文化の醸成・医療事故防止のための組織的対策</p> <p>(⑨ 栗栖 千幸/5回) 1: 医療と経済 2: 日本の医療費、医療保障制度、診療報酬制度 13: 課題：日本における看護と政策の課題－エビデンスに基づいた考察 14: 課題：日本における看護と政策の課題－エビデンスに基づいた考察 15: プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>(26 渡邊 亮/6回) 3: 経済発展と国民の健康水準 4: 医療保険の理論、運営の実際 5: 医療経済評価 6: 医療経営の特徴と課題 7: 医療提供組織における経営の特徴と課題 8: ガバナンスとアカウンタビリティ</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	DNP特論Ⅲ	<p>(概要) 組織の現状分析や組織変革の方法、組織におけるマネジメントとリーダーシップの在り方、看護組織における人材育成の施策を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 休波 茂子/9回) 1: 科目オリエンテーション 組織と組織論、組織開発と組織変革 2: 組織目標と組織設計、組織の意思決定のためのプロセス、イノベーションと変革 7: 組織におけるマネジメント (1) : マネジメントとは何か、マネジメントとリーダーシップ 8: 組織におけるマネジメント (2) : トランジションマネジメント 9: リーダーシップの理論 (1) : 行動理論 (PM理論)、条件型 (パスコール理論、フィードラーの理論、SL理論) 10: リーダーシップの理論 (2) : EQ型リーダーシップ、ジュエアド・リーダーシップなど 11: 人材育成とキャリア: キャリア理論からみた人材育成の在り方 12: 人材育成と人的資源の活用: 組織デザインから考えた人的資源の活用の検討 13: 人材育成と継続教育: 人材育成の視点から現状の継続教育の課題と対策</p> <p>(⑦ 渡邊 八重子/4回) 3: 組織文化と組織分析: 組織文化とは、組織文化とリーダーシップ、組織分析の方法 (PPM分析、SWOT分析、マッキンゼーの7S分析、統合型コンティンジェンシーモデル分析) 4: 組織変革の理論: レヴィンの組織改革プロセス、コッターの組織改革理論など 5: 組織分析と組織変革の方法 (1) : レヴィンの組織改革プロセス 6: 組織分析と組織変革の方法 (2) : コッターの組織改革理論</p> <p>(② 休波 茂子・⑦ 渡邊 八重子/全2回) (共同) 14: 人材育成を見据えた組織変革の実際 (1) 組織の現状分析を通して、根拠に基づいて現場を動かす取り組みについて検討する 15: 人材育成を見据えた組織変革の実際 (2) 変革理論により、根拠に基づいて現場を動かす取り組みについて提案する</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 群	DNP特論Ⅳ	<p>(概要) 対象個人・家族の健康を、対象・家族が生活する地域（コミュニティ）との関連のなかで捉え、ヘルスプロモーションに適用できる理論・モデルを活用し、対象個人・家族への個別支援から地域（コミュニティ）全体の健康増進、変革へと発展させる方法を学修する。また、地域の人々の生活と健康を支える保健・医療・福祉のネットワーク化、ヘルスケアシステム構築について学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 大野 知代/1回) 11: 対象個人・家族への個別支援から、地域（コミュニティ）全体の健康増進と変革への発展 - 母子保健の事例② 子育て支援（育児相談、母子の健康教育、性教育等）、女性のヘルスプロモーション等</p> <p>(4 伊藤 隆子/3回) 9: 対象個人・家族への個別支援から、地域（コミュニティ）全体の健康増進と変革への発展 - 在宅療養者を支える地域包括ケアシステム構築等の事例 12: 対象個人・家族への個別支援から、地域（コミュニティ）全体の健康増進と変革への発展 - 介護予防、認知症予防等の事例 13: 対象個人・家族への個別支援から、地域（コミュニティ）全体の健康増進と変革への発展 - 地域における終末期ケア、在宅看取り体制の事例</p> <p>(5 志村千 鶴子/1回) 10: 対象個人・家族への個別支援から、地域（コミュニティ）全体の健康増進と変革への発展 - 母子保健の事例① 子育て支援（育児相談、母子の健康教育、性教育等）、女性のヘルスプロモーション等</p> <p>(③ 鶴岡 章子/8回) 1: 対象個人・家族の健康と地域（コミュニティ） 3: ヘルスプロモーションに適用できる理論、モデル 4: 対象個人・家族の健康課題を個別支援から、地域（コミュニティ）全体の健康増進、変革へと発展させる手法 5: 保健・医療・福祉のネットワーク化、ヘルスケアシステム構築 7: 地域（コミュニティ）の健康増進と変革に向けた計画、実施、評価 8: 対象個人・家族への個別支援から、地域（コミュニティ）全体の健康増進と変革への発展 - 生活習慣病予防、がん予防等の事例 14: 根拠に基づいたアプローチと、ヘルスプロモーションのモデルを活用した地域（コミュニティ）全体の健康増進と変革を目指す計画（課題） 15: プレゼンテーション(地域全体の健康増進のための計画)、ディスカッション</p> <p>(⑤ 川上 裕子/2回) 2: ヘルスプロモーションの理念、理論的背景 6: 地域（コミュニティ）のアセスメント</p>	オムニバス方式
	DNP特論Ⅴ	<p>(概要) ヘルスケア分野におけるデザイン思考法の活用を理論面と実践面から学習する</p> <p>(17 大滝 令嗣/全15回) 1: デザイン思考法の生まれた背景 2: ヘルスケア分野におけるデザイン思考法の意義 3: デザイン思考法の基本プロセス 4: デザイン思考を実行できる組織の作り方 5: リーダーとしてデザイン思考を実践する 6: ユーザーの真意を理解する技術 7: 課題の再定義、リフレーミング 8: 偏見を捨てて創造的に問題解決を行う 9: サービスのプロトタイプを作るということ 10: ユーザーのフィードバックを受け取るためのファシリテーション 11: サービスデザインとサービスマネジメント 12: 海外の医療現場での応用事例：チルドレンズ・ヘルスシステム 13: 海外の医療現場での応用事例：GEヘルスケ・アシシステム 14: 海外の医療現場での応用事例：モナシユ・ヘルス 15: 海外の医療現場での応用事例：(印) アラビンド・アイケア・システム</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 群	DNPプロジェクト演習	<p>(概要) 各自の関心領域における実践現場で疑問に感じる現象と今までの学修内容から課題を特定し、ケア方法、ケアシステム、あるいは看護制度についての何らかの改革・変革に関する科学的根拠とデザイン思考に基づいた実装のためのプロジェクトを構築する。</p> <p>① 田中 美恵子・② 休波 茂子・③ 大野 知代・④ 伊藤 隆子・⑤ 志村 千鶴子・⑥ 長江 弘子 ⑦ 鶴岡 章子・⑧ 岡本 明美・⑨ 足立 智孝・⑩ 渡邊八重子</p> <p>1～ 5:関心領域における看護の現状と問題の検討 学生自身の経験を通して、介入対象（組織・コミュニティなど）の問題状況を検討し、取り組むべき実装のためのプロジェクト研究課題を明らかにする。</p> <p>6～15:関連領域の研究の動向と研究知見 選定したプロジェクト研究の課題に関連する先行研究やガイドライン等関連文献を検索し、研究の動向と実装のためのプロジェクト研究に活用できる知見を得る。</p> <p>16～25:プロジェクト内容の検討 先行研究やガイドライン等関連文献から得た知見をふまえて、実装のためのプロジェクトのアウトラインを作成する。介入対象（組織・コミュニティなど）に所属するプロジェクトメンバーとの討議を通して、アプローチ方法、アウトカム指標について検討する。</p> <p>25～30:プロジェクト研究の計画書作成 取り組むべき課題、アプローチ方法、期待されるアウトカムなどの検討結果をもとに、実装のためのプロジェクト研究の計画書を作成する。</p>	学生の研究テーマによって該当の担当教員が担当する

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	DNPプロジェクト研究	<p>(概要) 各自のテーマについて改革・変革プロジェクトを実施・評価する。高度看護実践者（看護管理者を含む）として自らプロジェクトを計画しエビデンスに基づいた実装方法を実施し、科学的方法に基づいた評価を行い、博士論文としてまとめる。</p> <p>(1) 田中 美恵子 質的研究方法全般を用いて、当事者の視点を中心に据え、病院内・地域双方における精神科領域の看護の質改善に関する研究プロジェクトの指導を行う。</p> <p>(2) 休波 茂子 臨床看護師の看護実践力を向上させ看護の質を改善するために、人材育成のための生涯教育プログラムの構築と実践及び評価や看護管理者による組織変革の実践と評価などについて、プロジェクト研究の指導を行う。</p> <p>(3) 大野 知代 あらゆる健康レベルの母子とその家族を対象に、ライフステージ各期に必要な看護支援の基礎となるナイチンゲール理論等の看護理論を基盤として、母子とその家族のQOLをはじめとした健康支援の課題を明確化し、その変革プロジェクトを立案、実施、評価することで、新たな看護実践方法の質改善を探索する。</p> <p>(4) 伊藤 隆子 地域・在宅領域で展開される看護の質改善、訪問看護事業所等の開設・管理・運営についての具体的な方略と質評価、地域包括ケアシステムにおける看護師によるチームマネジメント等に関するテーマを扱う。</p> <p>(5) 志村 千鶴子 女性のヘルスプロモーション、看護・助産ケアおよび看護師・助産師教育の質保証と質改善を取り上げ、女性と家族を中心としたケアの介入評価、看護教育の課題の研究指導を行う。</p> <p>(6) 長江 弘子 地域医療や急性期医療及び多様な療養場の移行期ケアにおける高度な倫理観に基づく意思表示支援など質の高いエンドオブライフケアを実践するための専門職ならびに多職種チームによる実践の変革と実践を支えるケアシステムや臨床現場の組織変革を目指した介入計画と評価、またそのための人材育成等に関連する研究テーマを取り扱う。</p> <p>(3) 鶴岡 章子 地域住民/患者のQOL向上を目指すケアシステム構築、関係機関のネットワーク形成における介入評価に関する研究指導を行う。</p> <p>(4) 岡本 明美 がん看護学の実践・教育の発展に貢献しうる各自の研究課題について、改革・変革プロジェクト計画に基づきプロジェクトを実践し、博士論文としてまとめる一連の過程を指導する。</p> <p>(9) 足立 智孝 臨床現場に生じる実践面あるいは組織面に関する課題について倫理的側面から分析し、それらの倫理的課題の改善に向けて、教育等の介入的アプローチを用い、現場の質改善ができるように研究指導を行う。</p> <p>(5) 川上 裕子 地域ケアシステムの発展と評価に関する実践史研究。 近代以降の地域における看護実践の歴史分析から、プライマリヘルスケアの理念に基づく地域ケアシステムの発展と実践の変革、ならびに介入評価のための実践原理を導き出すことを目指す。</p> <p>(13) 千葉 恵子 終末期患者とその家族と看護師のかかわりに関して、研究者が問題ととらえた事象に対して、実践の変革を促進するための具体的な介入戦略を開発し、プロジェクト全体の実行プロセスや結果を定期的に評価する一連の研究の指導を行う。</p> <p>(14) 高野 海哉 看護介入のアウトカムとして、エビデンスに基づいた患者の臨床アウトカムを同定し、臨床現場に適した実装戦略と研究デザインを検討し、患者や看護師を対象とした看護の質改善または変革プロジェクトの効果を評価する博士論文研究を指導する。</p>	

学校法人鉄蕉館 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学	編入学	収容	令和7年度	入学	編入学	収容	変更の事由
	定員	定員	定員		定員	定員	定員	
亀田医療大学 看護学部 看護学科	80	—	320	亀田医療大学 看護学部 看護学科	80	—	320	
計	80	—	320	計	80	—	320	
亀田医療大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (M)	10	—	20	亀田医療大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (M)	10	—	20	
計	10	—	20	看護学専攻 (D)	3	—	9	課程変更 (認可申請)
計	10	—	20	計	13	—	29	
亀田医療技術専門学校 看護学科 助産学科	80	—	240	亀田医療技術専門学校 看護学科 助産学科	80	—	240	
計	100	—	260	計	100	—	260	